

こころ 県P連だより

発行 徳島市北田宮1丁目8-68
〒770-0003 ☎088-633-1105
徳島県PTA連合会
編集 総務広報委員会

子どもたちの幸せのために

会長 祖上 俊郎

本年度も残り僅かとなりました。会員の皆様におかれましては、日頃からPTA諸活動に深いご理解とご協力を賜りましてありがとうございます。心より感謝申し上げます。

昨年、子どもたちが犠牲となった事件や事故が全国各地で起こり、これまで予想もつかなかった事件に子どもたちが巻き込まれる危険性が高まってきています。少子高齢化も加速しつつあり、社会情勢も目まぐるしく変動しております。

さて、日本でPTAが誕生したのは、第二次世界大戦後にGHQの指示、勧告により、文部省が「父母と先生の会委員会」を設置し、昭和二十二年に「父母と先生の会」教育の民主化のために」というPTA設立の手引書を作成して全国に配布したのが始まりだそうです。

日本では、戦前から「学校後援会」や「父兄会」という学校後援会組織があったために、「PTA」はこういった組織を母体としてスタートしたケースが多いようです。学校と一体となって子どもの教育のために努力してきたPTA活動について工夫を加え、さらに発展させるために考えなくてはならない時期にきていると思います。

「子どもは親の鏡である」という言葉があります。けなされて育つと、子どもは人をけなすようになります。不安な気持ちで育てると、子どもは不安になる。しかし励まして育てれば子どもは自信を持つようになる。広



四国ブロック研究大会

い心で接すれば、キレル子にならない。誉めてあげれば子どもは明るく育つ。このように、親が「広いこころ」を持ち合わせるか否かが、子どもの成長に影響を与えると思われまます。良き父であり良き母であるよりよき家庭を作ることが、私たちの使命です。

時代の変化は、急ピッチ

で進んでいます。先に述べたように、PTA活動を活発にし、現在の教育活動の変化についていくことは至難の技と思えますが、会員の全力投球と校長先生をはじめ、先生方のご指導と協力により、全ての会員が、子どもの幸せのために、研修会活動及び教育条件や生活環境を改善していく活動が最も重要であると思えます。

輪が休んでいる、動くことの出来ない車のようなものではないでしょうか。「子どもたちにとって、何が今一番必要か。そして、そのためには、親として何が出来るか。」といった問いを、私たち一人一人が常に心の片隅で持ち続け「子どもたちの幸せのために」切磋琢磨していきたいと思えます。

最後になりましたが、会員の皆様をはじめ関係者の方々には、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

●徳島県立総合教育センター

生涯学習課の案内

平成十六年十一月、板野町にオープンした総合教育センターの生涯学習課では、地域の教育力向上をめざしてさまざまな事業が企画されています。

平成十八年度から始まる「地域教育力再生事業」はその名の通り、一昔前の日本のあちらこちらで見られた、地域で子どもを育てる景色をよみがえらせようという意図した取り組みです。具体的には、県内の二十五の小学校区に実行委員会を設置します。そこで選任された方は、「子どもの学びの場づくりコーディネーター研修」や「自然体験活動指導者研修」を通し、地域の核となりネットワーキングや体験活動の企画をすすめます。

人間関係の稀薄化が進む中、地域を元氣

にする人を養成するのがこの事業の大きなねらいです。すでに、PTA活動に邁進されているみなさんこそ、コーディネーターのよき候補者です。

ふるって参加してください。また、平成十八年度も「家庭いきいき支援者養成講座」を開催します。人気の講座で、毎年定員を上回る応募があります。地域で活動する子育て支援者養成講座です。関心のある方は是非受講してください。

この他、県民カレッジの生涯学習講座や「学んで伝える体験講座」等も開催しています。詳しいことは総合教育センターの生涯学習課に問い合わせてください。

第五十三回日本PTA全国研究大会に参加して

副会長 山田 馨

昨年八月「愛・地球博」で賑わう愛知県で開催されました。スローガンは「育もう子どもたちの夢・愛・知」

私が参加した第三分科会「学校教育」は、「豊かな心と学ぶ意欲を育むために」というテーマで教育評論家の尾木直樹先生の講演「印象に残っているのは「子どもは、未来からの使者」といいます。だから子どもの事件は未来を予測している……大事なことは、家庭の子どもに対する受け止め方の問題……しっかりと子どもを抱きしめて下さい。心に元気がみなぎる親子関係をどう作るか、これは教師にとっても必要です……子育て

を楽しまししょう」―テレビで見るとずつとずつと愉快な先生でした。二日目の全体記念講演は、さだまさしさんの「夢いっぱい笑顔のために」というライブコンサート。全編を紹介したいほどのユーモアと心に染み入る内容でした。生い立ちから現在まで、語りと歌（至九曲）を交えながら会場を笑いと感動の渦で包み込みました。さわり「私たちの国」という概念はどこで括るのか？「国とは国家なり」というのは、すごい言葉だなと思います。この国に住み暮らす人が、日本語が下手になったらこの国は終わっていくしかな

徳島県PTA家庭教育研修大会に参加して

人権・家庭教育委員会 委員長 三宅 茂子

一月二十四日、徳島県教育委員会、幼・小・中・高のPTA連合会の主催のもと、文化センター、青少年センターの両会場で盛大に開催されました

本年度より、一般の方々の参加もあり、立ち見をしなればならない程でした。今回、講師としてお招きした菅原裕子先生は、日本中の親たちの子育てや自己実現を援助する活動を展開しています。著書も、「聞く技術、伝える技

術」をはじめ「お母さん早く早く！と言わないで」など多数あり、私も当日販売されていました。「子どもの心のコーチング」を購入し、今、読んでいます。会場の中では、先生のお話を聞きながら、参加者が二人ひと組で、コーチングのテクニックを使いながら親子のコミュニケーションをロールプレイしていました。私は受付をしていた為会場にははいらず外で聞いていただけです

いという事なのですね。」もう一つ「昔、小泉八雲は日本人の事を『妖精の子孫だ。そうでなければ、こんなに美しい物をこしらえられるはずがない』と言ったのです。そして彼は、明治四十年にこんな文章を残しています。「日本人は、長く深く美しいこの文化と伝統を今ここで捨て去って、西洋の文化に追いつき追い越そうとするあまりに、西洋人の合理的な心まで輸入しようとしてるように見える……だがそうなるってしまった頃、私の愛する日本人はもう日本人ではなくなり、日本人にとってもよく似た西洋人になってしまっているだろう……私たちの事かもしれない。」……これから百年かけて次の素晴らしい子どもたちを育てましょう。」

知っていますか？ 給食の様子

1日2000個の牛乳廃棄

学校給食用の牛乳パックは、環境問題をはじめとする様々な観点から、業者が回収してくれています。そのさい、消費牛乳パックといっしょに、まったく手つかずの新品のままの2,000パックの牛乳が返品されています。県酪農協議会のお世話で牛乳工場を見学した折の説明でした。

我が子はきちんと飲んでるのか。驚きと同時に一抹の不安が頭をよぎる。

学校給食では、子どもの発達段階をもとに、必要摂取カロリーや栄養素、バランスよい食材等が考慮されています。しかし、これもきちんと食べての話。

1日、2,000人も子どもたちが、牛乳を全く飲まずにいるなんて、主食や副食はきちんと食べているの？ひょっとしてこれも？

我が子の給食の様子、牛乳のこと、話し合ってみませんか。そして、今一度、我が子、我が家の食生活を考えてみませんか。

四国ブロックPTA研究大会高知大会に参加して

副会長 松下 一俊

あの日、明るい太陽と青い海、陽気な人々と美味しい魚などと南国高知への思いをはせて、初めての研究大会に参加したので。ザワザワ、ワイワイとした和やかなムードから一転して、ピンと張りつめた空気の中、いよいよ「第三十四回四国ブロックPTA研究大会」が始まりました。

開会セレモニーの後、アトラクションとして披露された神田太鼓は、子どもたちを中心にしたとは思えない勇壮な太鼓の音色を響かせ会場を沸かせました。

続いて、金沢泰裕氏による「親が変わらなければ、子ども変わらない」と題した実体験

「人の役に立つ喜び」この三

を基にした貴重な講演を聞くことが出来ました。方向を見失っては挫折、立ち直っては挫折、また立ち直っては挫折。周りの人々の思いに気づき、自分の家族や子どもたちへの本当の愛情がわかってから現在の自分に至るまでの壮絶な生き様をその熱い語り口調と共に、心に刻むことが出来ました。

その後の分科会には、私も参加し、発表する機会を得ました。緊張の中にも有意義な時間を経験することが出来ました。

そして、活動内容を発表すると同時に、ここに至るまでの葛藤や、協力していただいた

つを頭の中に入れ、私自身が子離れをし、子どもと共に成長して行きたいと思えました。

た方への感謝の気持ち、活動への大きな輪を感じることも出来ました。この発表を通して、今まで以上に子どもたちを真剣に見つめることが多くなったことも私にとっては大きな、大きな収穫でした。それから、現代社会が抱える子どもたちの生活環境の変化や、その影響など提案発表される方々の考えも大いに勉強になりました。

子どもたちは、今の時代、今の時間をしっかりと生きています。この時代を作ってきた私たちが大人が、その責任において子どもたちをいっつも見守ってやらなくてははいけないと思います。

今、「家庭・学校・地域での連携した子育て」の必要性が大きく叫ばれています。時間はありません。子どもたちは、日々成長しています。毎日

が真剣勝負です。明るく楽しい親子関係、地域づくりを目指して、これからも子育て活動に取り組んでいきます。